

| 項目 | 内容 |
|----------|--|
| 名称 | ウイキョウ、フェンネル [英]Fennel [学名]Foeniculum vulgare Mill |
| 概要 | ウイキョウは、ヨーロッパでも中国漢方でも古くから重要な薬用植物として利用されてきた。香りがよいので、ヨーロッパでは葉と種子が魚料理に欠かせない、重要な食用ハーブでもある。苦味フェンネル (コモンフェンネル) と甘味フェンネルという2種の汎用種があり、甘味フェンネルは自生せず栽培のみである。スパイス名で呼ばれる場合、苦味フェンネルが、フェンネルという呼び名でよく使われる。 |
| 法規・制度 | <p>■食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実、種子、根、葉：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。 <p>■日本薬局方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウイキョウ、ウイキョウ末、ウイキョウ油が収載されている。 <p>■食品添加物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存添加物 香辛料抽出物：苦味料等 ・精油除去ウイキョウ抽出物：酸化防止剤 <p>■海外情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国では、GRASに該当する。 |
| 成分の特性・品質 | |
| 主な成分・性質 | <ul style="list-style-type: none"> ・精油を約8%含み、その中のフェンチン (d-fenchone) とアネトール (anethole)、エストラゴン (estragon) が芳香成分 (33)。 ・含有する精油成分は、栽培する土地の年平均気温によって異なるという報告がある (2006174188)。 |
| 分析法 | <ul style="list-style-type: none"> ・trans-anethole、p-anisaldehyde、quercetin-3-O-β-D-glucuronide、chlorogenic acidがダイオードアレイ検出器 (検出波長254 nm)、質量分析器を装着したHPLCにより分析されている (PMID:11052726)。漢方製剤中のanetholeが紫外可視検出器 (検出波長273 nm) を装着したHPLCにより分析されている (101)。 ・果実中のp-anisaldehyde、estragole、anetholeをHPLC (波長280 nm) で分析したという報告がある (2006174188)。 |

有効性

| | |
|----------|--|
| ヒトでの評価 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 消化系・肝臓 | <p>メタ分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 2015年7月までを対象に5つのデータベースで検索できた無作為化比較試験17報について検討したメタ分析において、小児疝痛の乳児（6ヶ月齢以下）による <i>L.reuteri</i>（6報）、ウイキョウ（3報）の摂取は泣く時間の短縮と関連が認められたが、試験によるばらつきが大きかった (PMID:26655941)。 <p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳児仙痛発作の既往歴がある乳児121名（2～12週、試験群62名、ロシア）を対象とした無作為化プラセボ対照試験において、0.1%フェネル種子油懸濁液5～20 mL（上限12 mL/kg/日）を4回/日、7日間摂取させたところ、仙痛が軽減した (PMID:12868253)。 |
| 糖尿病・内分泌 | <p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> 顔に限局した軽度および中程度の特発性多毛症の女性38名（16～53歳、試験群26名、イラン）を対象とした二重盲検比較試験において、1%または2%フェネル含有クリームを2回/日、12週間顔面に塗布させたところ、顔面における毛髪の直径が減少した (PMID:13678227)。 |
| 生殖・泌尿器 | <p>メタ分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 2015年3月までを対象に8つのデータベースで検索できた無作為化比較試験27報について検討したメタ分析において、ディル（1報）、ウイキョウ（1報）、コロハ（1報）、ショウガ（3報）、グアバ（1報）、バレリアン（1報）、カミツレ（1報）、シナモン（1報）などのハーブの月経困難症の痛みに対する効果は、報告数が少なく試験の質が低いため、結論づけることができなかった (PMID:27000311)。 |
| 脳・神経・感覚器 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 免疫・がん・炎症 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 骨・筋肉 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 発育・成長 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 肥満 | <p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> 過体重または肥満の閉経後女性47名（試験群22名、平均57.36±5.6歳、イラン）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、フェネル100 mg×3回/日を12週間摂取させたところ、体重、ウエスト径、ヒップ径に影響は認められなかった (PMID:29354616)。 |
| その他 | 調べた文献の中に見当たらない。 |

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら
監訳
- (23) 天然食品・薬品・化粧品の記事 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳
- (58) The Complete German Commission E Monographs
- (101) 医薬品研究. 1996;27(3):111-8.
- (92) 現代中薬薬理学 天津科学技術出版社
[\(PMID:10678493\) J Pharm Pharmacol. 1999 Dec;51\(12\):1391-6.](#)
[\(PMID:12868253\) Altern Ther Health Med. 2003 9;58-61.](#)
[\(PMID:13678227\) Phytomedicine. 2003;10:455-458.](#)
[\(PMID:11052726\) J Agric Food Chem. 2000; 48\(10\): 4734-8.](#)
- (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS).
(2006174188) 北海道立衛生研究所報. 2003;53:76-8.
[\(PMID:18970951\) J Pediatr Surg. 2008 Nov;43\(11\):2109-11.](#)
- (33) 世界薬用植物百科事典 誠文堂新光社 A.シエヴァリエ
[\(PMID:10460442\) J Neurol. 1999 Aug;246\(8\):667-70.](#)
[\(PMID:10795656\) Ann Allergy Asthma Immunol. 2000 Apr;84\(4\):460-2.](#)
[\(PMID:7919774\) Acta Paediatr. 1994 Jun;83\(6\):683.](#)
[\(PMID:21865126\) Epileptic Disord. 2011 Sep;13\(3\):345-7.](#)
[\(PMID:24030028\) J Pediatr Endocrinol Metab. 2014 Jan 1;27\(1-2\):175-9.](#)
[\(PMID:23843424\) Phytother Res. 2014 Apr;28\(4\):603-10.](#)
[\(PMID:24934554\) J Pharm Pharm Sci. 2014;17\(2\):254-65.](#)
[\(PMID:24458977\) Phytother Res. 2014 Oct;28\(10\):1573-6.](#)
(2007119508) 日本皮膚科学会雑誌. 2006;116(13):2212-7.
[\(PMID:27000311\) Cochrane Database Syst Rev. 2016 Mar 22;3:CD002124.](#)
[\(PMID:26655941\) J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2016 May;62\(5\):668-86.](#)
(2017028885) アレルギーの臨床. 2016;36(11):1072-5.
[\(PMID:29354616\) J Menopausal Med. 2017 Dec;23\(3\):166-171.](#)
[\(PMID:11603570\) Endocrine Journal. 2001; 48\(4\):473-82](#)